MS 500i

STIHL

2 - 29 取扱説明書

目次

1 ごあいさつ....2
2 はじめに....2
3 概要....2
4 安全に関する重要事項....4
5 チェンソーの使用準備....11
6 チェンソーの組み立て....11
7 チェンブレーキを掛ける/解除する....13
8 燃料の混合とチェンソーへの給油....13
9 エンジンの始動と停止....15
10 チェンソーの点検....16
11 チェンソーの操作....17
12 作業後....21
13 運搬....22
14 保管....22
15 清掃....22
16 整備....24
17 修理....25
18 トラブルシューティング....25
19 技術仕様....26
20 バーとチェンの組み合わせ....27
21 スペアパーツおよびアクセサリー....28
22 廃棄....28
23 EC 適合証明書....28
24 UKCA 適合宣言....28
25 アドレス....29

1 ごあいさつ

お客様各位

STIHL 製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。弊社では、お客様のご要望を満たす高品質の製品を開発し、製造しております。弊社の製品は、極端な条件下においても高い信頼性が発揮されるよう設計されております。

STIHL 社は上質なサービスでも定評があります。弊社販売店は、お客様にご満足いただける助言や商品説明だけでなく、広範なサービスサポートも提供しております。

STIHL 社は天然資源を持続可能かつ責任ある方法で利用することに尽力しており、この方針を明示しています。本取扱説明書は、製品の長きに渡る耐用年数において、お客様が STIHL 製品を安全かつ環境に優しい方法で使用するのに役立つよう考えられています。

弊社をご愛顧いただきまして有難うございます。今後とも STIHL 製品をご愛用いただきますようお願い申し上げます。

Dr. Nikolas Stihl

重要！初めて使用する前に取扱説明書をお読みください。取扱説明書は、必要なときに参照できるよう安全な場所に保管してください。

2 はじめに

2.1 本書内の警告表示

警告

- 重傷または死亡の原因となるおそれのある危険を示しています。
  - ► 記載されている対策を講じると、重傷または死亡事故を防ぐことができます。

注記

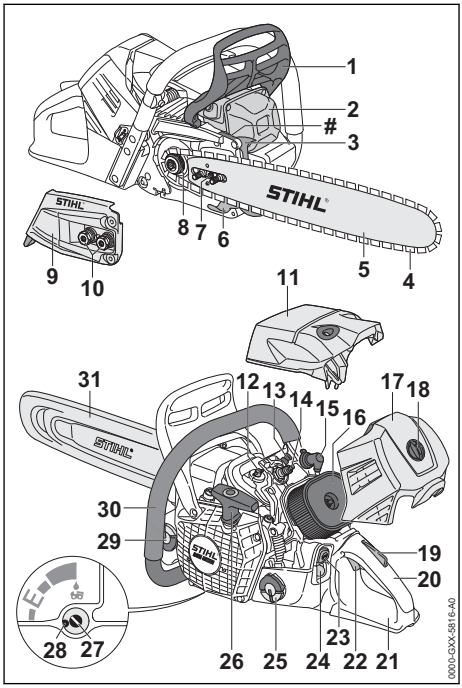
- 物的損害の原因となるおそれのある危険を示しています。
  - ► 記載されている対策を講じると、物損事故を防ぐことができます。

2.2 本文中の記号

この記号は、本取扱説明書の章を示します。

3 概要

3.1 チェンソー



オリジナルの取扱説明書の翻訳
0000008111_015_J
無塩素漂白紙使用
紙はリサイクル可能です。
© ANDREAS STIHL AG & Co. KG 2024
0458-809-4321-B. VA7.A24.

1 **前ハンドガード**
チェンが作業者の左手に接触するのを防ぎ、チェンブレーキを作動させるレバーとして働き、特定のキックバック状況下で慣性力によってチェンブレーキを作動させます。

2 **マフラー**
チェンソーが発する騒音を低減します。

3 **バンパースパイク**
鋸断中にチェンソーを木材に安定的に接触させるための歯付きストップ。

4 **ソーチェン**
木を切断します。

5 **ガイドバー**
ソーチェンを支え、導きます。

6 **チェンキャッチャー**
バーから外れるか、破断したチェンが作業者に接触する危険を低減します。

7 **テンショニングスクリュー**
チェンの張りを調整します。

8 **チェンスプロケット**
チェンを駆動させる歯車。

9 **チェンスプロケットカバー**
チェンスプロケットを覆い、ガイドバーをチェンソーに固定します。

10 **ナット**
チェンスプロケットカバーをチェンソーに固定します。

11 **シュラウド**
エンジン用カバー

12 **シュラウドロック(ツイストロック)**
シュラウドをチェンソーに固定します。

13 **デコンプバルブ**
エンジン始動をしやすくします。

14 **スパークプラグ**
エンジン内の混合気に点火します。

15 **スパークプラグターミナル**
イグニッションリードをスパークプラグに接続します。

16 **エアフィルター**
エンジン吸気を濾過します。

17 **フィルターカバー**
エアフィルター用カバー

18 **フィルターカバーロック**
フィルターカバーをチェンソーに固定します。

19 **スロットルトリガーロックアウト**
スロットルトリガーのロックを解除します。

20 **コントロールハンドル**
チェンソーの操作、保持、制御に使用します。

21 **後ハンドガード**
バーから外れたり、破断したりしたチェンが作業者の右手に接触するのを防ぎます。

22 **スロットルトリガー**
エンジン回転数を制御します。

23 **停止スイッチ**
エンジンを切ります。

24 **手動燃料ポンプ**
エンジン始動をしやすくします。

25 **燃料タンクキャップ**
燃料タンク用の蓋。

26 **スターターグリップ**
エンジンのクランキング用

27 **オイルポンプ調整スクリュー**
チェンオイル供給量を調整します。

28 **ストップ**
オイルポンプ調整スクリューの回転範囲を制限します。

29 **オイルタンクキャップ**
オイルタンクの蓋。

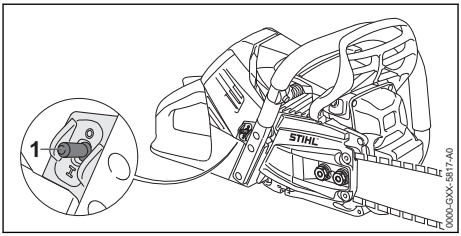
30 **ハンドルバー**
チェンソーの保持、制御、運搬用に使用します。

31 **チェンガード**
ユーザーがソーチェンに接触しないよう保護します。

機械番号

3.2 特徴

このチェンソーには次の機能が装備されている場合があります：



1 **ハンドルヒータースイッチ**
ハンドルヒーターのオン/オフを切り替えます。前/後ハンドルが加熱されます。

3.3 記号

チェンソーに表示されている記号の意味：

この記号は、燃料タンクを示しています。

この記号は、チェンオイルタンクを示しています。

チェンブレーキが掛かる方向と解除される方向を示しています。

この記号は、チェンの回転方向を示しています。

この記号は、オイルポンプ調整スクリューとチェンオイル供給量を示しています。

この方向に回転させると、チェンの張りが増します。

この記号は、ハンドルヒーターのスイッチを示しています。

この記号は、デコンプバルブを示しています。

この記号は、停止スイッチを示しています。

LWA 製品が発する騒音を比較できるよう、指令 2000/14/EC に準拠して決定された dB(A) 単位の音響出力レベル保証値。

4 安全に関する重要事項

4.1 警告標示

チェンソー上の警告標示の意味：

安全上の注意事項を遵守し、必要な予防措置を講じてください。

製品をお使いになる際は、本取扱説明書をよくお読みいただき、ご理解ください。また本書は必ず保管してください。

保護メガネ、イヤープロテクター、ヘルメットを着用してください。

キックバックに関する安全通知を遵守し、必要な予防措置を講じてください。

4.2 用途

STIHL MS 500i チェンソーは、木材の切断、枝払い、伐倒用に設計されています。

⚠ 警告

- 設計された目的以外でチェンソーを使用すると、重傷または致命傷や器物損壊の原因になるおそれがあります。
  - ► チェンソーは、本取扱説明書に従って使用してください。

4.3 オペレーター

⚠ 警告

- 適切な研修または指導を受けていない使用者は、チェンソーの使用に伴う危険を認識/認知できません。使用者または他の人員が重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ► 製品をお使いになる際は、取扱説明書をよくお読みいただき、ご理解ください。また本書は必ず保管してください。
  - ► このチェンソーを譲渡する場合：必ず本取扱説明書を一緒に手渡してください。
  - ► 使用者が以下の必要条件を満たしていることを確認してください：
    - – 使用者は、十分な休息をとっている。
    - – チェンソーを使用するために適切な身体的および精神的状態にある。使用者の身体的、感覚的、または精神的機能が制限されている場合、その使用者は、責任者の監督の下で、または責任者による指導どおりにのみ作業することができます。
    - – 使用者はチェンソーの危険を認知することができる。
    - – 使用者は法定年齢に達しているか、国の規則や規制に従った監督下での職業訓練を受けていなければなりません。
    - – 使用者は、初めてチェンソーを使用する前に、STIHL サービス店、またはその他の経験豊富な使用者から指導を受けている。
    - – 使用者は、アルコールまたは薬物の影響を受けていてはなりません。
  - ► チェンソーの使用が初めての場合：木挽き台や他の土台の上で丸太を鋸断する練習をしてください。
  - ► ご不明な点があれば：STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
- チェンソーのイグニッションシステムは、電磁界を発生します。その電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ► 使用者がペースメーカーを着用している場合：ペースメーカーが影響を受けないことを確認してください。

4.4 衣服と装備

⚠ 警告

- 長髪は作業中にチェンソーに絡まることがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。
  - ► 長髪は肩にかからないようまとめてください。

- 作業中は物体が高速で飛散することがあります。それにより負傷するおそれがあります。

  - ► 確実にフィットする保護メガネを着用してください。European Standard(欧州基準) EN 166 または日本の基準に従って試験され、ラベルが付けられている適切なメガネは、販売店から入手できます。
  - ► STIHL 社では、フェイスシールドの使用をお勧めしています。
  - ► 身体に合った長袖シャツを着用してください。
- 操作中は騒音が発生します。騒音は聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

  - ► イヤープロテクターを着用してください。
- 落下物で頭部を負傷するおそれがあります。

  - ► 作業中に落下物による危険がある場合：ヘルメットを着用してください。
- 作業中は、粉塵が巻き上げられることがあります：巻き上げられた粉塵は気道を傷付け、アレルギー反応を引き起こすおそれがあります。
  - ► 粉塵が巻き上げられて周囲を漂っている場合：防塵マスクを着用してください。
- 不適切な衣服は樹木、茂み、またはチェンソーに絡まる可能性があります。適切な保護装備を着用しないと、重傷を負うおそれがあります。
  - ► 体にぴったり合う衣服を着用してください。
  - ► スカーフや装身具を身に付けないでください。
- 作業中、回転するソーチェンに接触するおそれがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。
  - ► 切断防止機能付きの長ズボンを着用してください。
- 作業中に樹木でケガをするおそれがあります。清掃中または整備中にソーチェンに接触するおそれがあります。それにより負傷するおそれがあります。
  - ► 丈夫な素材の手袋を着用してください。
- 不適切な靴を履くと、滑ったり、つまずいたりするおそれがあります。回転中のソーチェンに触れると、切り傷を負うことがあります。それにより負傷するおそれがあります。
  - ► 切断防止機能付きのチェンソーブーツを着用してください。

4.5 作業エリアおよび周辺環境

⚠ 警告

- 見物人、子供、動物は、チェンソーまたは飛散物の危険を認識していません。無知な見物人、子供、動物は重傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
  - ► 作業エリアに見物人、子供、動物を近付けないでください。
  - ► チェンソーを無人のまま放置しないでください。
  - ► 子供がチェンソーで遊ばないよう注意してください。
- エンジン作動中はマフラーから高温の排気ガスが排出されます。高温の排気ガスによって可燃物が引火し、火災が生じるおそれがあります。
  - ► 排気ガスは可燃物から十分に離してください。

4.6 安全に関する条件

4.6.1 チェンソー

チェンソーは、以下の条件が満たされている場合、安全な状態です：

- チェンソーが損傷していない。
- チェンソーから燃料が漏れていない。
- 燃料タンクとオイルタンクのキャップが閉まっている。
- チェンソーが掃除されている。
- チェンキャッチャーが装着され、損傷していない。
- チェンブレーキが正常に作動する。
- 操作部が正常に作動し、改造されていない。
- チェンの潤滑が正常に行われている。
- チェンスプロケットの摩耗の深さが 0.5 mm 未満。
- 本書内で推奨されているガイドバーとソーチェンの組み合わせが装着されている。
- ガイドバーとソーチェンが適切に装着されている。
- ソーチェンの張りが適正になっている。
- 本チェンソーモデル用に設計された STIHL 純正アクセサリーだけが取り付けられている。
- アクセサリーが適切に取り付けられている。

⚠ 警告

- 安全な状態にない場合、部品が正常に作動しなくなり、安全装置が働かなくなり、燃料が漏れ出すおそれがあります。重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ► チェンソーは必ず損傷のない状態で使用してください。
  - ► チェンソーから燃料が漏れている場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL

サービス店にサポートを依頼してください。
- ► 燃料タンクとオイルタンクのキャップを閉めます。
- ► チェンソーが汚れた場合、チェンソーを掃除してください。
- ► 必ず損傷のないチェンキャッチャーを適切に取り付けて使用してください。
- ► チェンソーは絶対に改造しないでください。例外：本書内で推奨されているガイドバーとソーチェンの組み合わせの装着。
- ► 操作部が正常に作動しない場合、チェンソーを使用しないでください。
- ► 必ず本チェンソーモデル用に設計された STIHL 純正アクセサリーを装着してください。
- ► ガイドバーとソーチェンは本取扱説明書に従って取り付けてください。
- ► アクセサリーは、本取扱説明書またはアクセサリーに付属する取扱説明書に従って装着してください。
- ► 絶対にチェンソーの開口部に物を差し込まないでください。
- ► 摩耗するか、損傷したラベルは交換してください。
- ► ご不明な点は、STIHL サービス店へお問い合わせください。

4.6.2 ガイドバー

ガイドバーは、以下の条件が満たされている場合、安全な状態です：
- – ガイドバーが損傷していない。
- – ガイドバーが変形していない。
- – 溝の最小深さが維持されている。📖 19.3
- – バーレールからバリが取り除かれている。
- – バーの溝が狭められたり、広がったりしていない。

⚠ 警告

- ■ ガイドバーが安全な状態にないときは、ソーチェンは適切に支持されず、正常に導かれなくなります。回転するソーチェンがガイドバーから飛び出すおそれがあります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ► ガイドバーは必ず損傷のない状態で使用してください。
  - ► 溝の深さが最小深さ以下の場合：新品ガイドバーを取り付けてください。
  - ► 毎週、ガイドバーからバリを取り除いてください。
  - ► ご不明な点があれば：最寄りの STIHL サービス店にご連絡ください。

4.6.3 ソーチェン

ソーチェンは、以下の条件が満たされている場合、安全な状態です：
- – チェンが損傷していない。
- – チェンが適切に目立てされている。
- – カッターのサービスマークがまだ見えている。

⚠ 警告

- ■ 部品が安全要件を満たしていない場合は、正常に作動しなくなるか、安全装置が作動しなくなるおそれがあります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ► ソーチェンは必ず損傷のない状態で使用してください。
  - ► チェンを適切に目立てしてください。
  - ► ご不明な点があれば：STIHL サービス店にサポートを依頼してください。

4.7 混合燃料と給油

⚠ 警告

- ■ 本チェンソーにはガソリンと 2 ストロークエンジンオイルの混合燃料が必要です。混合燃料とガソリンは、可燃性が極めて高い液体です。混合燃料またはガソリンが裸火や高温の物体に触れると、火災や爆発が生じるおそれがあります。重傷や致命傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
  - ► 混合燃料とガソリンは、熱源や炎から保護してください。
  - ► 混合燃料やガソリンをこぼさないでください。
  - ► 燃料をこぼした場合は、布で拭き取り、チェンソーの全部品が乾くまでは エンジンを始動しないでください。
  - ► 喫煙しないでください。
  - ► 火気の近くでは給油しないでください。
  - ► 必ずエンジンを切り、冷ましてから、燃料を給油してください。
  - ► 給油場所から 3 m 以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限ります。
- ■ 燃料/ガソリンの気化ガスには毒性があります。
  - ► 燃料/ガソリンの気化ガスは吸い込まないでください。
  - ► 換気の良い場所で給油してください。
- ■ チェンソーは、使用中や気温が非常に高い環境下では高温になります。燃料の種類、標高、周囲温度、チェンソーの温度によっては、燃料が膨張してタンクの内圧が高まることがあります。燃料タンクキャップを開けると、霧状の燃料が吹き出し、引火するおそれがあります。使用者が重傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
  - ► チェンソーを冷ましてから燃料タンクキャップを開けてください。

- ► 燃料タンクキャップは一度の操作で完全に開けるのではなく、ゆっくりと開けてください。
- ■ 燃料やガソリンが付着した衣服は、引火しやすくなります。重傷や致命傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
  - ► 衣服に燃料またはガソリンが付着したときは：着替えてください。
- ■ 混合燃料、ガソリン、および 2 ストロークエンジンオイルは、環境に有害です。
  - ► 燃料、ガソリン、または 2 ストロークエンジンオイルは、こぼさないでください。
  - ► 混合燃料、ガソリン、および 2 ストロークエンジンオイルは、地域の規制と環境要件に従って処分してください。
- ■ 皮膚に付着するか、目に入ると、混合燃料、ガソリン、または 2 ストロークエンジンオイルは炎症を引き起こすことがあります。
  - ► 混合燃料、ガソリン、および 2 ストロークエンジンオイルには触れないでください。
  - ► 皮膚に付着したときは、大量の水と石鹸で付着した部分を洗浄してください。
  - ► 目に入った場合、大量の水で 15 分以上洗眼し、医師の診察を受けてください。
- ■ チェンソーのイグニッションシステムは火花を発生します。引火や爆発が起きやすい環境下では、エンジン外部の火花によって火災や爆発が生じるおそれがあります。重傷や致命傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
  - ► スパークプラグは、本取扱説明書に従って使用してください。
  - ► スパークプラグを差し込み、確実に締め付けます。
  - ► スパークプラグターミナルを接続し、確実に押し込みます。
- ■ 不適切なガソリンや不適切な 2 ストロークエンジンオイルから成る混合燃料を使用するか、ガソリンと 2 ストロークエンジンオイルの混合比率が不適切な混合燃料を使用すると、チェンソーが損傷するおそれがあります。
  - ► 燃料は、本取扱説明書に従って混合してください。
- ■ ガソリンと 2 ストロークエンジンオイルの混合燃料は、長期にわたって保管すると分離するか、劣化することがあります。分離したり、劣化したりした混合燃料を使用すると、チェンソーが損傷するおそれがあります。
  - ► チェンソーに給油する前に、燃料を十分に混合してください。
  - ► 混合してから 30 日以内のガソリンと 2 ストロークエンジンオイルの混合燃料を使用してください (STIHL MotoMix の場合は、5 年以内に使用してください)。

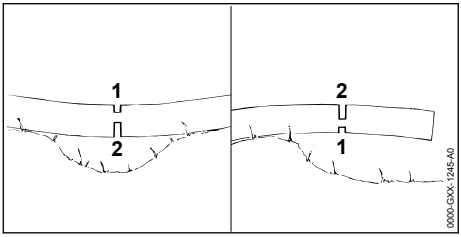
4.8 操作

4.8.1 切断作業

⚠ 警告

- ■ 声を出して助けを呼べる範囲内で常に作業を行ってください。
  - ► 作業エリア外の人に声が届く範囲内で作業してください。
- ■ エンジンを適切に始動しないと、ユーザーがチェンソーの制御を失うことがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。
  - ► 取扱説明書に従ってエンジンを始動してください。
  - ► ソーチェンが地面または物体と接触している場合：エンジンを始動しないでください。
- ■ 特定の条件下では、ユーザーは作業に集中できなくなることがあります。ユーザーがチェンソーの制御を失ったり、つまずいたり、転倒したりし、重傷を負うおそれがあります。
  - ► 冷静かつ慎重に作業を行ってください。
  - ► 明るさと視界が不十分な場合：チェンソーを使用しないでください。
  - ► チェンソーは一人で操作してください。
  - ► 肩より上の高さで作業しないでください。
  - ► 障害物に注意してください。
  - ► 機械の操作中は地面に立ち、バランスを保ちます。高所での作業が必要な場合：リフトバケットまたは安全な台を使用してください。
  - ► 疲れを感じたら：休息をとってください。
- ■ エンジン作動中は排気ガスが排出されます。排気ガスは、吸い込むと有害です。
  - ► 排気ガスは吸い込まないでください。
  - ► チェンソーは換気の行き届いた場所で使用してください。
  - ► 吐き気、頭痛、視覚障害、聴覚障害、めまいが生じた場合：作業を中止し、医師の診察を受けてください。
- ■ エンジン作動中にイヤープロテクターを着用している場合、音が聞こえにくくなります。
  - ► 冷静かつ慎重に作業を行ってください。
- ■ チェンブレーキが損傷するおそれがあるため、チェンブレーキを掛けたままエンジンを加速させないでください。
  - ► チェンブレーキを解除してから鋸断を開始してください。
- ■ 回転するソーチェンでケガをすることがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。
  - ► 回転するソーチェンには触れないでください。
  - ► ソーチェンに障害物が挟まった場合：エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。挟まった障害物を取り除きます。

- 回転中のチェンは高温になり、膨張します。潤滑が不十分で、張り具合を定期的に調整しない状態では、チェンがガイドバーから外れるか、破断することがあります。それにより重傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
  - ► 専用チェンオイルを使用してください。
  - ► 鋸断作業中は、定期的にチェンの張りを点検します。チェンの張りが不十分な場合：チェンを張ります。
- 操作中にチェンソーの動作が変化するか、異常を感じたときは、機械がもはや安全な状態にない可能性があります。それにより重傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
  - ► 作業を中止し、STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
- 作業中、チェンソーは振動することがあります。
  - ► 手袋を着用します。
  - ► 定期的に休憩をとります。
  - ► 血行不良の兆候が見られたときは：医師の診断を受けてください。
- 回転するチェンが硬い物体に接触すると、火花が発生することがあります。引火しやすい場所では、火花によって火災が生じるおそれがあります。それにより重傷または致命傷を負ったり、器物が損壊したりすることがあります。
  - ► 引火しやすい場所では、作業を行わないでください。
- スロットルトリガーを放してもソーチェンはしばらく回転し続ける点に注意してください。回転するソーチェンでケガをすることがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。
  - ► チェンが完全に停止するまで待ちます。



⚠ 警告

- 張力がかかっている樹木の鋸断中にガイドバーが挟まれることがあります。ユーザーがチェンソーの制御を失い、重傷を負うおそれがあります。
  - ► まず圧縮がかかっている側 (1) に負荷軽減カットを入れ、次に張力がかかっている側 (2) を玉切りします。

4.8.2 枝払い

⚠ 警告

- 最初に倒木の下側で枝払いをすると、倒木は地上で枝によって支えられなくなります。切断作業中に倒木が動くおそれがあります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ► 倒木下側の太い枝は、切り込んだ後にのみ落としてください。
  - ► 枝払いの際は、幹の上に立たないでください。
- 枝払い中に枝が地面に落下することがあります。それにより転倒事故や落下事故が生じたり、重傷を負ったりするおそれがあります。
  - ► 樹木の根元から先端に向かって枝払いします。

4.8.3 伐倒

⚠ 警告

- 経験のない使用者は、伐倒の危険を見極めることができません。重傷や致命傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
  - ► 使用者は伐倒技術の関連知識を身に付け、伐倒作業の経験を積む必要があります。
  - ► ご不明な点は経験豊富なエキスパートに尋ね、適切な伐倒技術を見極めてください。
- 伐倒作業中に樹木や枝が見物人や物の上に落下することがあります。落下物が大きくなればなるほど、重傷や致命傷を負う危険が増します。物的損害につながるおそれがあります。
  - ► 木が倒れる場所が明確になるように伐倒方向を決めます。
  - ► 見物人、子供、動物は作業エリアから樹高の 2.5 倍の範囲内に入らせないでください。
  - ► 伐倒前に樹頭から折れた枝や枯れた枝を取り除いてください。
  - ► 樹頭から曲がった枝や枯れた枝を取り除くことができないときは、経験豊富な工キスパートに相談し、適切な伐倒技術を見極めてください。
  - ► 樹頭や周辺木の樹頭を観察し、落下する枝に近付かないでください。
- 樹木が倒れるときに、幹が裂けたり、作業者の方向に跳ね返ったりするおそれがあります。それにより重傷や致命傷を負うおそれがあります。
  - ► 樹木後ろ側の斜め方向に退避路を決めてください。
  - ► 退避路を後退しながら倒れる樹木を観察します。
  - ► 斜面を後ろ向きに下らないでください。
- 作業工リアと退避路に障害物があると、作業者の妨げになることがあります。つまずいて倒

れるおそれがあります。それにより重傷や致命傷を負うおそれがあります。
- ► 作業エリアと退避路から障害物をすべて取り除きます。

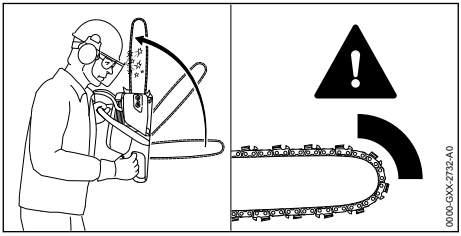
■ つるや追いづるの切断が早すぎると、伐倒方向を制御できなくなるか、樹木が早期に倒れることがあります。重傷や致命傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
- ► つるに切り込んだり、つるを切断したりしないでください。
- ► 追いづるの切断は最後に行います。
- ► 樹木が想定よりも早く倒れ始めた場合は、伐倒作業を中止し、退避路に沿って避難します。

■ 回転するチェンがバーノーズの上部 1/4 で硬い伐倒用クサビに接触し、急停止すると、キックバックが起こることがあります。重傷や致命傷を負う危険があります。
- ► アルミニウム製またはプラスチック製の伐倒用クサビを使用してください。

■ 樹木が地面まで完全に倒れなかった場合や別の樹木に引っ掛かった場合は、制御しながら作業を完了させることはできません。
- ► 伐倒作業を中止し、ケーブルウィンチや適切な車両で樹木を地面に引き倒してください。

4.9 反発力

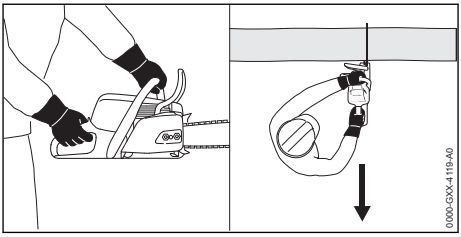
4.9.1 キックバック



キックバックは、以下の理由で生じることがあります：
– ガイドバー先端上部 1/4 の部分の回転するソーチェンが硬い物体に触れ、急停止した。
– 回転するソーチェンがバー先端部で挟まった。

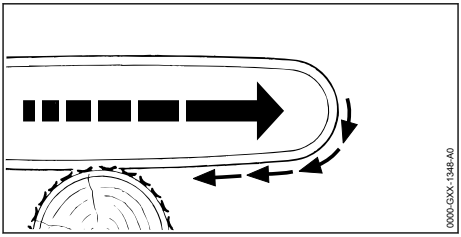
チェンブレーキでキックバックの発生を防ぐことはできません。

⚠ 警告



■ キックバックが生じると、チェンソーがオペレーターの方向に跳ね上がることがあります。チェンソーの制御を失い、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
- ► チェンソーを両手でしっかり保持します。
- ► 体を常にカッティングアタッチメントの面から離してください。
- ► 本取扱説明書に記載されている推奨作業方法に従ってください。
- ► バーの先端上部 1/4 部分で鋸断しないでください。
- ► 必ず適切に目立てをし、張り具合を調整をしたソーチェンで鋸断します。
- ► キックバック低減ソーチェンを使用してください。
- ► 先端部の径が小さいガイドバーを使用してください。
- ► 常にチェンを最高速で作動させて鋸断してください。

4.9.2 プルイン



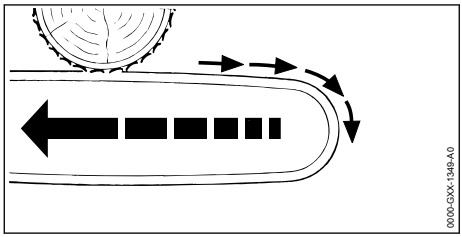
バーの下部を切断に使用すると、ソーが作業者から遠ざかる方向に引かれます。

⚠ 警告

■ 回転するチェンが硬い物体に当ったり、急に挟まれたりすると、チェンソーが作業者から遠ざかる方向に唐突に引っ張られることがあります。チェンソーの制御を失い、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
- ► チェンソーを両手でしっかり保持します。
- ► チェンソーは取扱説明書に従って操作してください。
- ► ガイドバーは切り口の中でねじらないでください。

- ► バンパースパイクを適切にかみ合わせます。
- ► 常にチェンを最高速で作動させて切断してください。

4.9.3 プッシュバック



バーの上部を切断に使用すると、ソーが作業者の方向に押し戻されます。

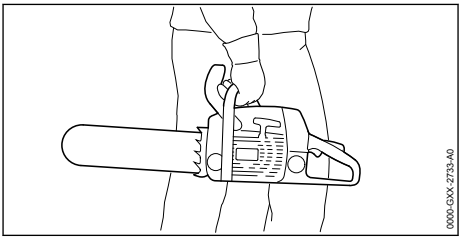
⚠ 警告

- 回転するチェンが硬い物体に当ったり、急に挟まれたりすると、チェンソーが作業者の方に唐突に押し戻されることがあります。チェンソーの制御を失い、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ► チェンソーを両手でしっかり保持します。
  - ► チェンソーは取扱説明書に従って操作してください。
  - ► ガイドバーは切り口の中でねじらないでください。
  - ► 常にチェンを最高速で作動させて切断してください。

4.10 運搬

⚠ 警告

- チェンソーは運搬中に倒れたり、ずれたりするおそれがあります。それにより重傷を負ったり、物的損害につながったりするおそれがあります。
  - ► エンジンを切ります。
  - ► チェンブレーキを掛けます。
  - ► ガイドバーを完全に覆うようにチェンガードを取り付けます。
  - ► 転倒したり、ずれたりしないよう、固定ストラップ、ベルトまたはネットでチェンソーを固定します。



- 使用後は、マフラーとエンジンが高温になっている場合があります。火傷を負う危険性があります。
  - ► チェンソーは、右手で前ハンドルを持ち、ガイドバーを後ろに向けて運搬してください。

4.11 保管

⚠ 警告

- 子どもはチェンソーの危険を認識/認知できず、重傷を負うおそれがあります。
  - ► エンジンを切ります。
  - ► チェンブレーキを掛けます。
  - ► ガイドバーを完全に覆うようにチェンガードを取り付けます。
  - ► チェンソーは子どもの手の届かないところに保管してください。
- 湿気によってチェンソーの電気接点や金属製部品が腐食することがあります。それによりチェンソーが損傷することがあります。
  - ► チェンソーは、清潔な乾いた状態で保管してください。

4.12 清掃、整備、修理

⚠ 警告

- 清掃、整備、または修理時にエンジンを作動させておくと、ソーチェンが偶発的に回転し始めるおそれがあります。それにより重傷を負ったり、物的損害につながったりするおそれがあります。
  - ► エンジンを切ります。
  - ► チェンブレーキを掛けます。
- 使用後は、マフラーとエンジンが高温になっています。それにより火傷を負うおそれがあります。
  - ► マフラーとエンジンが冷えるまで待ちます。
- 刺激の強い洗浄剤、高圧洗浄機、または尖った物体は、チェンソー、ガイドバー、ソーチェンを損傷させるおそれがあります。チェンソー、ガイドバー、ソーチェンを適切に清掃しないと、部品が正常に機能しなくなるか、安全装置が働かなくなることがあります。それにより重傷を負うことがあります。

- ► チェンソー、ガイドバー、ソーチェンは本取扱説明書に従って清掃してください。
- ■ チェンソーを本書に従って整備しないと、部品が正常に機能しなくなるか、安全装置が働かなくなるおそれがあります。重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ► チェンソーは本取扱説明書に従って整備/修理してください。
- ■ ガイドバーとソーチェンを本取扱説明書に従って整備/修理しないと、部品が正常に作動しなくなるか、安全装置が働かなくなるおそれがあります。それにより重傷を負うことがあります。
  - ► ガイドバーとソーチェンの整備や修理時は、本取扱説明書に従ってください。
- ■ ソーチェンの清掃中や整備中に、鋭利なカッターでケガをする場合があります。それにより負傷するおそれがあります。
  - ► 耐切創手袋を着用してください。

5 チェンソーの使用準備

5.1 チェンソーの使用準備

作業を開始する前に、以下の手順に従ってください：

- ► 以下の部品が安全な状態になっているか確認します：
  - – チェンソー、📖 4.6.1。
  - – ガイドバー、📖 4.6.2。
  - – ソーチェン、📖 4.6.3。
- ► チェンソーを清掃します、📖 15.1。
- ► バーとチェンを取り付けます、📖 6.1.1。
- ► ソーチェンを張ります、📖 6.2。
- ► チェンオイルを給油します、📖 6.3。
- ► チェンブレーキを点検します、📖 10.4。
- ► チェンソーに給油します、📖 8.2。
- ► 操作部を点検します、📖 10.5。
- ► チェンの潤滑状態を点検します、📖 10.6。
- ► 上記の作業を行うことができない場合は：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。

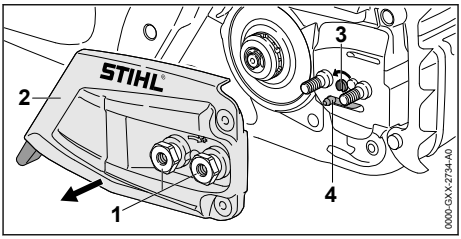
6 チェンソーの組み立て

6.1 バーとチェンの取り付け/取り外し

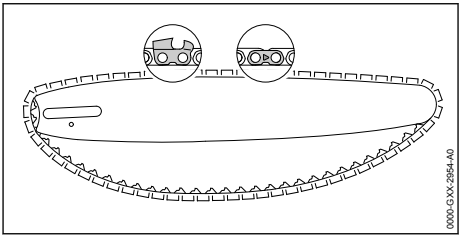
6.1.1 バーとチェンの取り付け

チェンスプロケットと共に使用可能なバーとチェンの組み合わせは、仕様書、📖 20.1 に記載されています。

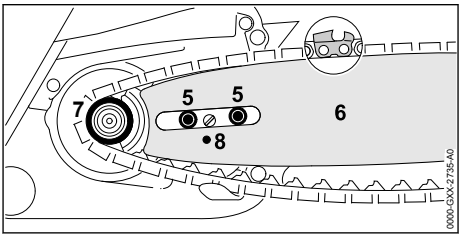
- ► エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。



- ► チェンスプロケットカバー (2) が取り外し可能な状態になるまでナット (1) を反時計回りに回します。
- ► チェンスプロケットカバー (2) を取り外します。
- ► テンショナースライド (4) がハウジングの左端に当たるまで、テンショニングスクリュー (3) を反時計回りに回転させます。



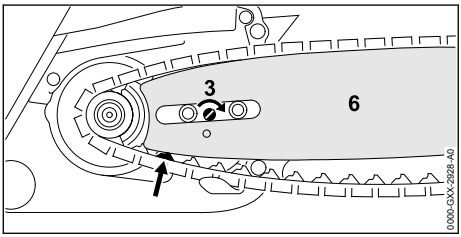
- ► タイストラップの矢印が回転方向を向くようにして、チェンをバー上側の溝に取り付けます。



- ► ガイドバーをチェンと共にチェンソーに取り付け、以下を点検します：
  - – チェンのドライブリンクがチェンスプロケット (7) の歯にはまっている。
  - – カラースタッド (5) がガイドバー (6) の後部にあるスロットに入っている。
  - – テンショナースライド (4) のペグがガイドバー (6) の穴 (8) にはまっている。

ガイドバー (6) の向きは、どちらでも構いません。ガイドバー (6) 上のロゴも上下逆になる場合があります。

- ► チェンブレーキを解除します。



- チェンがたるみなしにバーにフィットするまで、テンショニングスクリュー (3) を時計回りに回転させます。ドライブリンクがバーの溝とかみ合っているか確認します。
  ガイドバー (6) とチェンをチェンソーに位置決めします。
- チェンソーとぴったり重なるようにスプロケットカバー (2) を取り付けます。
- ナット (1) を取り付け、しっかりと締め付けます。

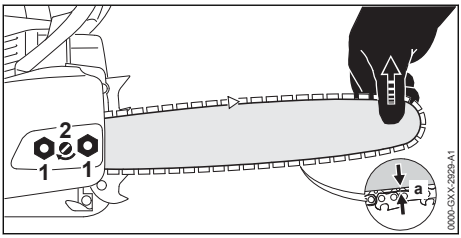
6.1.2 バーとチェンの取り外し

- エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- チェンスプロケットカバーが取り外し可能な状態になるまでナットを反時計回りに回します。
- スプロケットカバーを取り外します。
- テンショニングスクリューを反時計回りに止まるまで回します。
  この段階でチェンが緩みます。
- バーとチェンを取り外します。

6.2 ソーチェンの張り方

ソーチェンは鋸断作業中に伸縮します。その結果、チェンの張り具合が変化します。作業中はチェンの張り具合を定期的に点検し、必要に応じて再調整してください。

- エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。

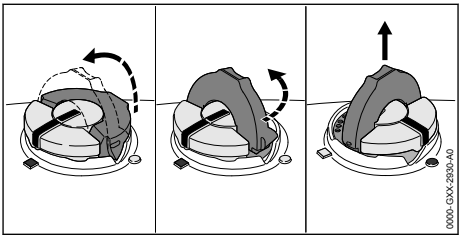


- ナット (1) を緩めます。
- チェンブレーキを解除します。
- バーノーズを持ち上げ、以下の状態になるまでテンショニングスクリュー (2) を時計回りに回します：
  – バー中央のチェンのたるみ‘a’が 1 - 2 mm。
  – チェンをバーに沿って二本の指で簡単に引くことができる。
- バーノーズを持ち上げたまま、ナット (1) をしっかりと締め付けます。
- バー中央のチェンのたるみ‘a’が 1 - 2 mm でない場合：チェンの張りを再調整します。

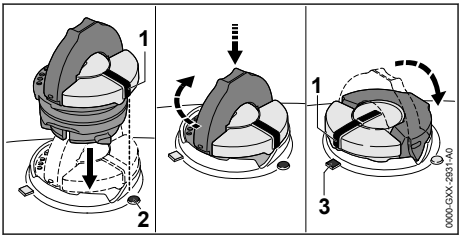
6.3 チェンオイルの給油

チェンオイルは回転するチェンを潤滑し、冷却します。

- エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- オイルタンクキャップが上を向くようにチェンソーを平らな面に置きます。
- 湿らせた布でタンクキャップとその周囲を掃除します。



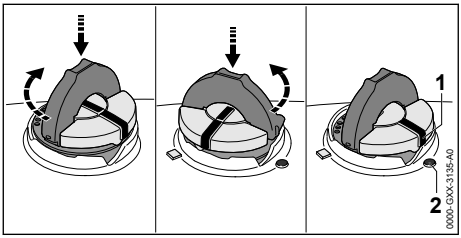
- オイルタンクキャップのグリップを垂直位置まで起こします。
- オイルタンクキャップを反時計回りに止まるまでまわします。
- オイルタンクキャップを取り外します。
- チェンオイルを給油します。オイルをこぼしたり、タンクからあふれさせたりしないよう注意してください。
- オイルタンクキャップのグリップが閉位置に下がったときは：グリップを垂直位置に起こします。



- キャップを注入口にかぶせ、印 (1) を印 (2) に合わせます。
- キャップを押し下げ、止まるまで時計回りにまわします。
  キャップが所定の位置にはまります。印 (1) が印 (3) に合います。
- オイルタンクキャップを引き上げ、外れるかどうか点検します。

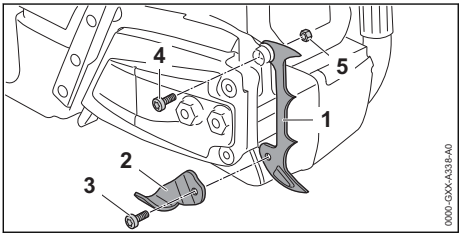
- 引き上げてもオイルタンクキャップが外れない場合 : オイルタンクキャップのグリップを倒します。
  オイルタンクが密閉されます。

引き上げるとオイルタンクキャップが外れてしまう場合は、以下の手順に従ってください :
- オイルタンクキャップを注入口に載せます - どの位置でも構いません。



- キャップを押し下げ、止まるまで時計回りにまわします。
- キャップを押し下げ、反時計回りにまわし、印 (1) を印 (2) に合わせます。
- オイルタンクキャップを再び閉めます。
- オイルタンクが適切に閉まらない場合 : チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
  チェンソーは安全な状態ではありません。

6.4 バンパースパイクの取り付け



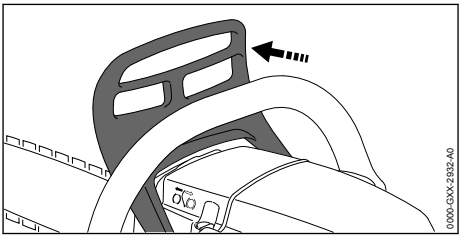
- スクリュー(3) を取り外し、チェンキャッチャー (2) を取り外します。
- バンパースパイク (1) を所定の位置に合わせます。
- スクリュー (4) を取り付けます。
- ナット (5) を取り付けます。
- チェンキャッチャー (2) を所定の位置に合わせます。
- スクリュー (3) をしっかりと締め付けます。
- スクリュー (4) をしっかりと締め付けます。

7 チェンブレーキを掛ける/解除する

7.1 チェンブレーキを掛ける

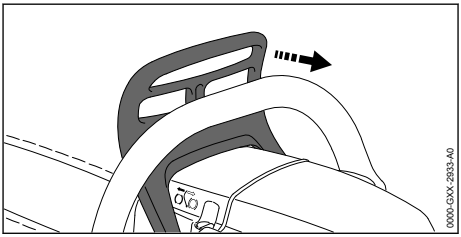
チェンソーには、チェンブレーキが搭載されています。

チェンブレーキは、強いキックバックが起きると前ハンドガードの慣性によって作動します。または、オペレーターが掛けることができます。



- ハンドガードを左手で前ハンドルから離れる方向に押します。
  カチッという音がしてハンドガードがかみ合います。チェンブレーキが掛かります。

7.2 チェンブレーキの解除



- ハンドガードを左手で前ハンドルの方向に引きます。
  カチッという音がしてハンドガードがかみ合います。チェンブレーキが解除されます。

8 燃料の混合とチェンソーへの給油

8.1 燃料の混合

本チェンソーには、ガソリンと 2 ストロークエンジンオイルを 50 : 1 の比率で混合した混合燃料が必要です。

STIHL 社では STIHL MotoMix(モトミックス) の使用をお勧めしています。

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは

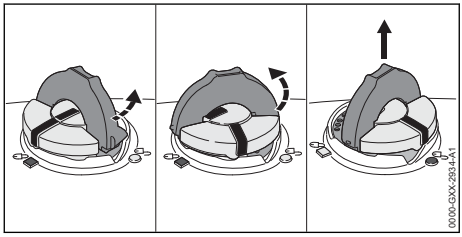
ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra(ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

- ガソリンのオクタン価が 90 RON 以上で、エタノール濃度が 10%以下 (ブラジルでは 27%以下) のガソリンを使用してください。
- 使用する 2 ストロークエンジンオイルが要件を満たしているか確認してください。
- 燃料の必要量に応じて、50 : 1 の混合比でガソリンと 2 ストロークエンジンオイルの適正量を割り出します。混合燃料の例 :
  - 20 ml の 2 ストロークエンジンオイルと 1 L のガソリン
  - 60 ml の 2 ストロークエンジンオイルと 3 L のガソリン
  - 100 ml の 2 ストロークエンジンオイルと 5 L のガソリン
- 承認された清潔な燃料容器にまず 2 ストロークエンジンオイルを入れ、次にガソリンを加えます。
- 燃料を完全に混合してから給油してください。

8.2 チェンソーに燃料を給油する

- エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- チェンソーが冷めるまで待ちます。
- 燃料タンクキャップが上を向くようにチェンソーを平らな面に置きます。
- 湿らせた布で燃料タンクキャップとその周囲を掃除します。
- 燃料タンクキャップのハンドルを起こします。



警告

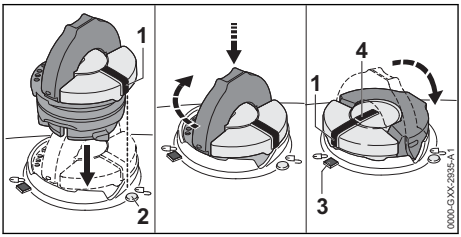
- チェンソーは、使用中や気温が非常に高い環境下では高温になります。燃料の種類、標高、周囲温度、チェンソーの温度によっては、燃料が膨張してタンクの内圧が高まることがあります。燃料タンクキャップを開けると、霧状の燃料が吹き出し、引火するおそれがあります。使用者が重傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
  - チェンソーを冷ましてから燃料タンクキャップを開けてください。
  - 燃料タンクキャップは一度の操作で完全に開けるのではなく、ゆっくりと開けてください。

- 燃料タンクキャップを反時計回りに約 1/8 回転させます。
  燃料タンクの内圧が高まっている場合は、圧力が解放される音が聞こえます。
- タンクの内圧が解放された後、燃料タンクキャップを反時計回りにまわし、キャップと燃料タンクの印を合わせます。
- 燃料タンクキャップを取り外します。

注記

- 照明や直射日光を当てたり、極端な温度にさらしたりすると、燃料の分離や劣化が加速することがあります。混合していない燃料や劣化した燃料を給油すると、チェンソーが損傷するおそれがあります。
  - 燃料を完全に混合してから給油してください。
  - 30 日以上 (STIHL MotoMix の場合は 5 年以上) 保管した混合燃料は使用しないでください。

- 給油時は燃料をこぼさないよう注意し、燃料の液面とタンク上端の間に 15 mm 以上の隙間を確保してください。
- 燃料タンクキャップのハンドルが閉位置に下がったときは、ハンドルを起こしてください。

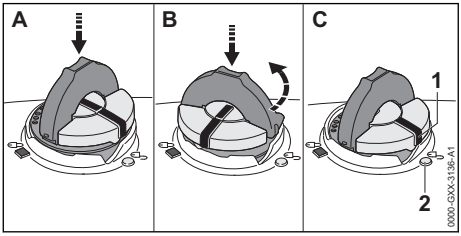


- 燃料タンクキャップを注入口にかぶせ、印 (1) を印 (2) に合わせます。

- ► 燃料タンクキャップを押し下げ、止まるまで時計回りにまわします。
  燃料タンクキャップが所定の位置にはまります。印 (1) が印 (4) と合い、印 (3) の方を向きます。
- ► 燃料タンクキャップを引き上げ、外れるかどうか点検します。
- ► 燃料タンクキャップを引き上げても外れない場合は、ハンドルを平らに倒し、キャップの上面と同じ高さにします。
  燃料タンクが密閉されます。

燃料タンクキャップを引き上げると外れてしまう場合は、以下の手順に従ってください:

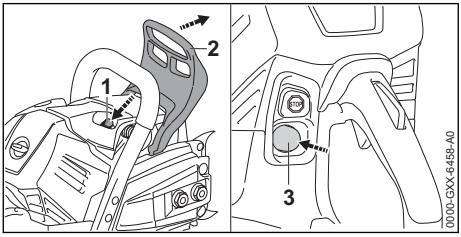
- ► 燃料タンクキャップを注入口に載せます。どの位置でも構いません。



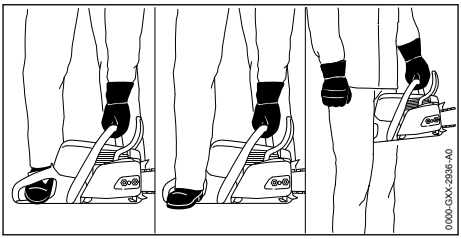
- ► 燃料タンクキャップを押し下げ、止まるまで時計回りにまわします。
- ► キャップを押し下げ、反時計回りにまわし、印 (1) を印 (2) に合わせます。
- ► 燃料タンクキャップを再び閉めます。
- ► 燃料タンクが依然として適切に閉まらない場合は、チェンソーを使用しないでください。
  STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
  チェンソーは安全な状態ではありません。

9 エンジンの始動と停止

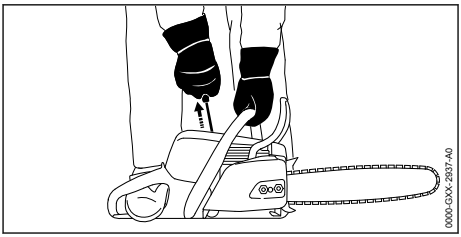
9.1 エンジンの始動



- ► チェンブレーキ (2) を掛けます。
- ► チェンガード (鞘) を抜き取ります。
- ► デコンプバルブ (1) を押します。
- ► 手動燃料ポンプ□(3) を最低 8 回押します。



- ► チェンソーを次の 3 通りのいずれかの方法でしっかりと保持します :
  - – チェンソーを平坦な地面に置きます。左手でハンドルバーを握り、チェンソーをしっかりと地面に押し付けます - 親指がハンドルの下側に来るようにします。右足のつま先を後ハンドルの中に入れ、確実に押さえます。
  - – チェンソーを平坦な地面に置きます。左手でハンドルバーを握り、チェンソーをしっかりと地面に押し付けます - 親指がハンドルの下側に来るようにします。右足のかかとを後ハンドルの中に入れ、確実に押さえます。
  - – 左手でハンドルバーを握り、チェンソーをしっかりと保持します - 親指がハンドルの下側に来るようにします。チェンソーの後ハンドルを、両足の膝上部で確実に挟みます。



- ► かみ合った感じがするまで、右手でスターターグリップをゆっくり引きます。
- ► エンジンが始動するまで、スターターグリップを素早く引き、スターターロープを巻き込む作業を数回繰り返します。
  エンジンがアイドリング回転数で作動します。

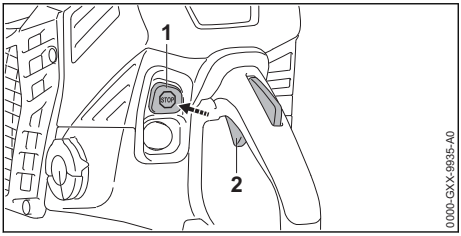
注記

- ■ チェンブレーキが損傷するおそれがあるため、チェンブレーキを掛けたままエンジンを加速させないでください。
  - ► チェンブレーキを解除してから鋸断を開始してください。

- ► チェンブレーキを解除します。
  チェンソーの作業準備が整いました。

- ► エンジンのアイドリング中にソーチェンが回転する場合：
  - ► エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
  - ► チェンソーを使用しないでください。
    STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
    チェンソーが故障しています。

9.2 エンジンの停止

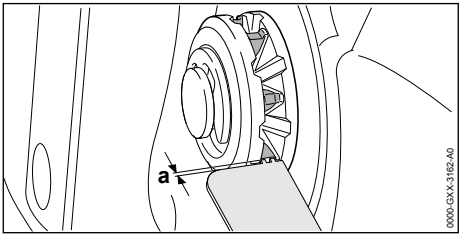


- ► スロットルトリガー (2) を放します。
  エンジンがアイドリング回転数で作動します。
- ► 停止スイッチ (1) を押します。
  エンジンが停止し、停止スイッチ (1) はオフ位置に戻ります。
- ► エンジンが停止しない場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
  チェンソーが故障しています。

10 チェンソーの点検

10.1 チェンスプロケットの点検

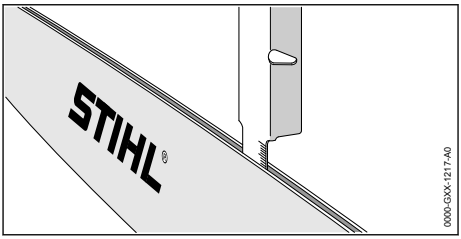
- ► エンジンを切ります。
- ► チェンブレーキを解除します。
- ► チェンスプロケットカバーを取り外します。
- ► バーとチェンを取り外します。



- ► STIHL ゲージを使用してスプロケットの摩耗を点検します。
- ► 摩耗マークが a = 0.5 mm よりも深い場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
  チェンスプロケットを交換してください。

10.2 ガイドバーの点検

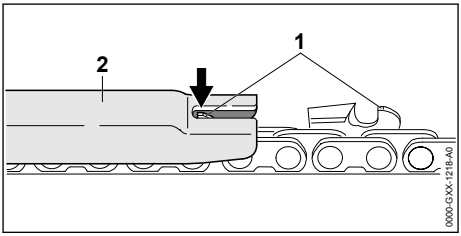
- ► エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- ► ソーチェンとガイドバーを取り外します。



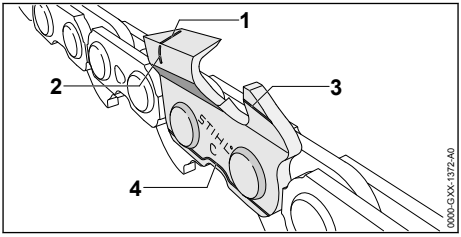
- ► STIHL ファイリングゲージの目盛でバーの溝の深さを測定します。
- ► 以下のいずれかが生じているときは、新品のガイドバーを取り付けてください：
  - – ガイドバーが損傷している。
  - – 測定されたバー溝の深さが、規定の最小深さ以下になっている、📖 19.3。
  - – バーの溝が狭められているか、広がっている。
- ► ご不明な点があれば：STIHL サービス店にサポートを依頼してください。

10.3 ソーチェンの点検

- ► エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。



- ► STIHL ファイリングゲージ (2) を使用してデプスゲージ (1) の高さを点検します。STIHL ファイリングゲージは、チェンのピッチと適合していなければなりません。
- ► デプスゲージ (1) がファイリングゲージ (2) から突き出る場合：デプスゲージ (1) を低くします、📖 16.3。



- ► カッター上のサービスマーク (1 - 4) が目視できるか確認します。

- カッター上のサービスマークのいずれかが目視できない場合 : チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
- STIHL ファイリングゲージを使用し、全カッターで 30°の目立て角度が維持されているか点検します。STIHL ファイリングゲージは、チェンのピッチと適合していなければなりません。
- 30° の目立て角度が維持されていない場合 : ソーチェンを再び目立てしてください。
- ご不明な点があれば : STIHL サービス店にサポートを依頼してください。

10.4 チェンブレーキのテスト

- エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。

警告

- チェンのカッター部分は非常に鋭利です。切傷を負う危険性があります。
  - 丈夫な素材の手袋を着用してください。

- ガイドバーに沿ってチェンを手で引きます。
  バーに沿ってチェンを手で引けない場合は、チェンブレーキは働いています。
- バーに沿ってチェンを手で引ける場合 : チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
  チェンブレーキに不具合が生じています。

10.5 操作部の点検

スロットルトリガーロックアウトおよびスロットルトリガー

- エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- ロックアウトレバーを押さずにトリガーを引いてみます。
- トリガーを引くことができる場合 : チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
  スロットルトリガーロックアウトが故障しています。
- スロットルトリガーロックアウトを押し下げ、そのまま保持します。
- スロットルトリガーを引き、放します。
- スロットルトリガーが円滑に動かないか、アイドル位置に戻らない場合 : チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
  スロットルトリガーが故障しています。

エンジンの停止

- エンジンを始動します。
- 停止スイッチを押します。
  エンジンが停止し、停止スイッチはオフ位置に戻ります。
- エンジンが停止しない場合 : チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
  チェンソーが故障しています。

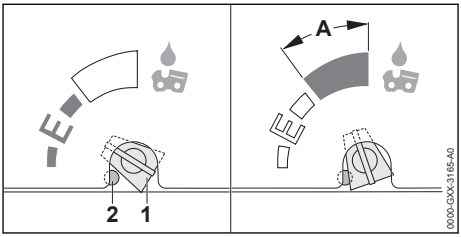
10.6 チェンオイルの潤滑状態点検

- エンジンを始動し、チェンブレーキを解除します。
- ガイドバーを明るい面にかざします。
- スロットルを開きます。
  チェンからチェンオイルが飛び散り、明るい面上で確認できます。チェンの潤滑機能は正常に働いています。
- チェンオイルが確認できない場合 :
  - エンジンを切ります。
  - チェンオイルを給油します。
  - チェンの潤滑状態を再点検します。
  - 明るい面でチェンオイルが依然として確認できない場合 : チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。チェンの潤滑機能に不具合が生じています。

11 チェンソーの操作

11.1 オイル供給量の調整

チェンソーには供給量調整式オイルポンプが搭載されています。



オイルポンプの調整スクリュー (1) が E(Ematic) の位置に合っているときは、オイル供給量は大半の用途に適します。

オイルポンプ供給量は、様々なバーの長さ、樹木の種類、作業方法に合わせて調整することができます。オイルポンプ調整スクリュー (1) の調整範囲は、ストップ (2) によって制限されています。ストップ (2) を押すと、オイル供給量をさらに増やすことができます。

オイル供給量を増やすには

- エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- オイルポンプ調整スクリュー (1) を時計回りにまわします。

オイル供給量をさらに増やすには

- エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。

► 適切な工具でストップ (2) を押します。
ストップ (2) は押された状態になります。

注記

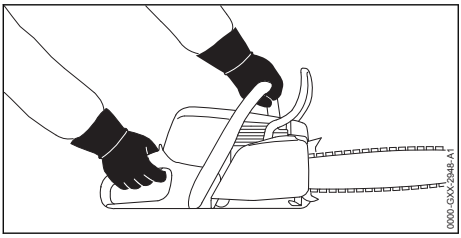
■ オイルポンプ調整スクリュー (1) が'A'部分を指しているときは、オイルタンク内のオイルはより短時間でなくなります。ソーチェンの潤滑が適切ではなくなる時期が通常よりも早く到来します。
  ► オイルタンクに最大量のオイルを給油してください。
  ► オイルの増量供給が不要になった時点で、オイルポンプ調整スクリューを'A'部分から左側へ回してください。

► オイルポンプ調整スクリュー (1) を時計回りにまわします。

オイル供給量を減らすには

► エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
► オイルポンプ調整スクリュー (1) を反時計回りにまわします。

11.2 チェンソーの保持と操作



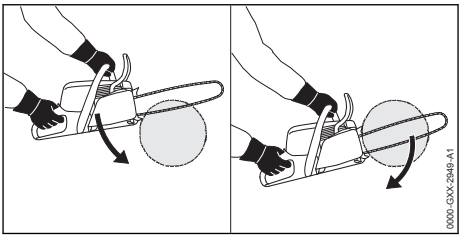
► 左手でハンドルバーを握り、右手でコントロールハンドルを握ってチェンソーを保持し、制御します。左手の親指をハンドルバーにかけ、右手の親指をコントロールハンドルにかけてください。

11.3 鋸断

警告

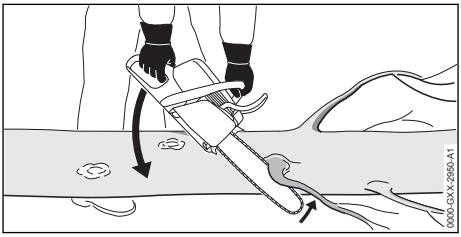
■ キックバックが生じると、チェンソーが作業者の方向に跳ね上がることがあります。それにより重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  ► 常にチェンを最高速で作動させて鋸断してください。
  ► ガイドバーの先端上部 1/4 部分を使用しないでください。

► チェンを最高速で作動させ、ガイドバーを垂直にして切断を開始します。

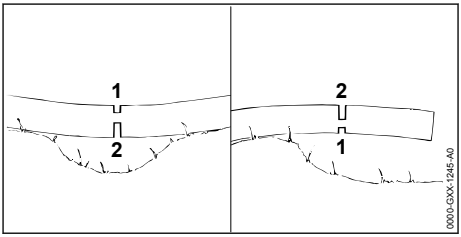


► バンパースパイクを当て、それを支点として利用します。
► ガイドバーの全幅を木材内へ導き、必要に応じてバンパースパイクをずらします。
► 鋸断の最後の部分では、チェンソーの重量を支えてください。

11.4 枝払い



► チェンソーを木材の上で支えます。
► チェンを最高速で作動させ、枝に接触させながらガイドバーを下方向に回します。
► ガイドバー上側で枝を切断します。

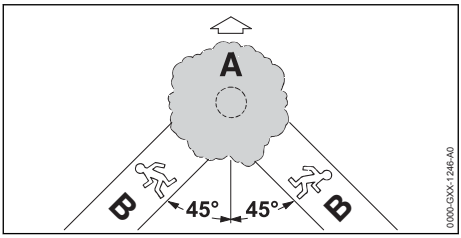


► 枝に張力が加わっている場合 : 圧縮側に負荷軽減カット (1) を入れた後、張力側から玉切り (2) を行います。

11.5 樹木の伐倒

11.5.1 伐倒方向と退避路の決定

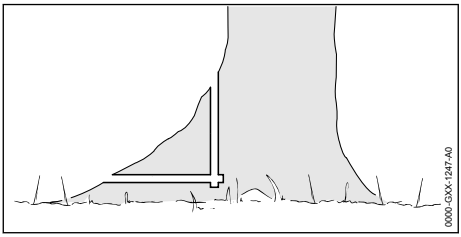
► 木が倒れる場所が確実になるように、伐倒方向を決めます。



► 退避路 (B) を決める際には、以下の点を遵守/確認します：
– 退避路 (B) が伐倒方向 (A) に対して 45°になるようにする。
– 退避路 (B) から障害物をすべて取り除く。
– 樹頭を観察することができる。
– 斜面では、傾斜に平行になるように退避路 (B) を設ける。

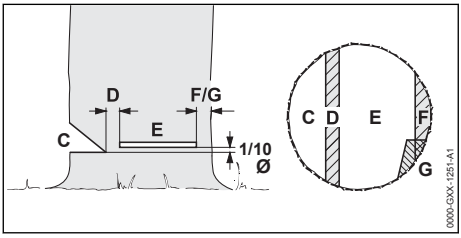
11.5.2 幹周辺の作業区域の準備

► 幹周辺の作業区域から障害物を取り除きます。
► 幹周辺から茂みを取り除きます。



► 太く、健全な板根がある場合：まず垂直に切断し、次に水平に切断し、切り出された板根を取り除きます。

11.5.3 伐倒の基本情報



C 伐倒受け口
伐倒受け口によって伐倒方向が決まります。

D つる
つるは、木が倒れるのをコントロールする助けとなります。つるの幅は、幹の直径の 1/10 です。

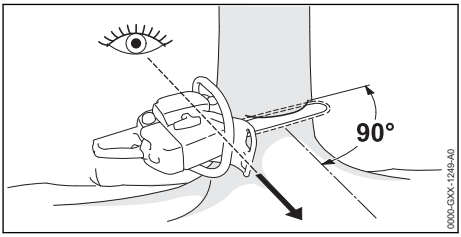
E 追い口
樹木は追い口を用いて伐倒します。追い口は幹の直径の 1/10 (最低 3 cm) 、受け口下側よりも上部に設けます。

F 追いづる (安定化用)
追いづるは樹木を支え、急に倒れるのを防ぎます。追いづるの幅は、幹の直径の 1/10 から 1/5 です。

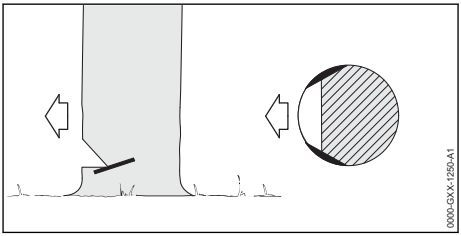
J 追いづる (保持用)
追いづるは樹木を支え、急に倒れるのを防ぎます。追いづるの幅は、幹の直径の 1/10 から 1/5 です。

11.5.4 受け口切り

受け口によって伐倒方向が決まります。受け口の作成に関する、国で定められた基準を遵守してください。



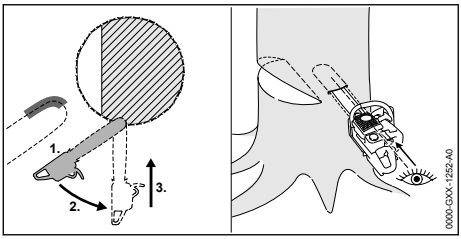
► 受け口が伐倒方向に対して直角になり、チェンソーが地面に近くなるように位置決めします。
► 水平に切り込みを入れます。
► 水平切断面まで 45°の角度で切断します。



► 健全で長い繊維の樹木の場合は、根張り切断時に以下の点を遵守してください。
– 両側で同じ寸法だけ切断する。
– 受け口下部と同じ高さで切断する。
– 幹の直径の 1/10 を切断幅とする。
上記を遵守すると、伐倒時に幹は裂けません。

11.5.5 突っ込み切り

突っ込み切りは、伐倒に必要な技術です。



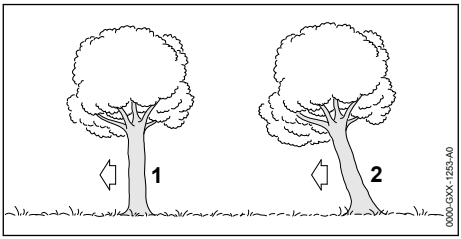
- チェンを最高速で作動させながら、ガイドバーの先端下部で切断を開始します。
- 切り目の深さがガイドバー幅の 2 倍になるまで切り込みます。
- ソーを突っ込み切り位置に差し込みます。
- 突っ込み切りを行います。

11.5.6 適切な伐倒方法の選択

伐倒方法の選択は、以下の要因によって決まります：

– 樹木の自然な傾き
– 樹木の枝ぶり
– 樹木の損傷程度
– 樹木の健康状態
– 樹木に雪が積もっている場合：雪の量
– 傾斜方向
– 風向きと風速
– 付近の樹木 (存在する場合)

こうした要因は、状況によって異なります。本取扱説明書では、2 種類だけ取り上げ、解説します。



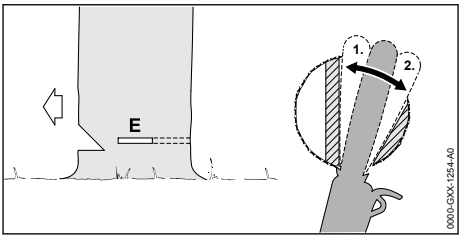
1 標準木
標準木は垂直に立ち、樹頭が揃っています。

2 傾木
傾木は斜めに立ち、樹頭が伐倒方向を向いています。

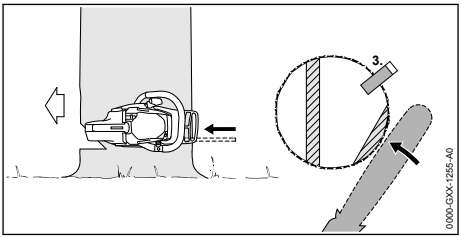
11.5.7 細い幹の標準木の伐倒

標準木は、追い口と追いづるで伐倒します。この追い口は、樹木の直径がガイドバーの長さよりも小さい場合に設けます。

- 大声で周囲に警告します。



- 幹の反対側に抜けるまで、追い口を突っ込み切りします (📖 11.5.5)。
- つるの後方にバンパースパイクをかみ合わせ、それを支点として利用します。
- つるの方向に追い口を広げます。
- 追いづるの方向に追い口を広げます。

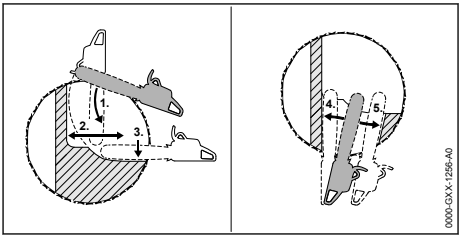


- 伐倒用クサビを差し込みます。伐倒用クサビは、幹の直径と追い口の幅と一致する必要があります。
- 大声で周囲に警告します。
- 腕を伸ばした状態でチェンソーを保持し、追い口と同じ高さで外側から水平に追いづるを切断します。
  樹木が倒れます。

11.5.8 太い幹の標準木の伐倒

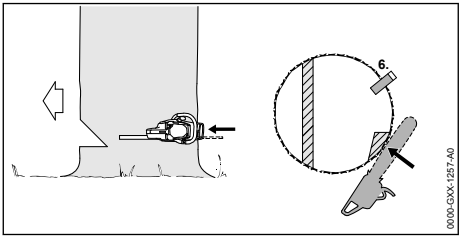
標準木は、追い口と追いづるで伐倒します。この追い口は、樹木の直径がガイドバーの長さよりも大きい場合に設けます。

- 大声で周囲に警告します。



- 追い口と同じ高さにバンパースパイクをかみ合わせ、それを支点として利用します。
- ソーを水平に保持し、できるだけ深く追い口を設けます。
- つるの方向に追い口を広げます。
- 追いづるの方向に追い口を広げます。

- ► 樹木の反対側に移動します。
- ► 同じ高さで追い口を突っ込み切りします。
- ► つるの方向に追い口を広げます。
- ► 追いづるの方向に追い口を広げます。

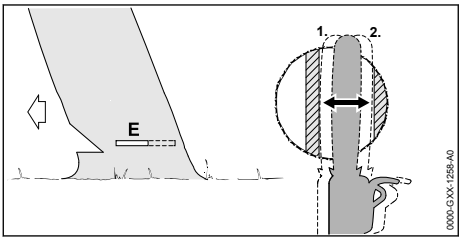


- ► 伐倒用クサビを差し込みます。伐倒用クサビは、幹の直径と追い口の幅と一致する必要があります。
- ► 大声で周囲に警告します。
- ► 腕を伸ばした状態でチェンソーを保持し、追い口と同じ高さで外側から水平に追いづるを切断します。
  樹木が倒れます。

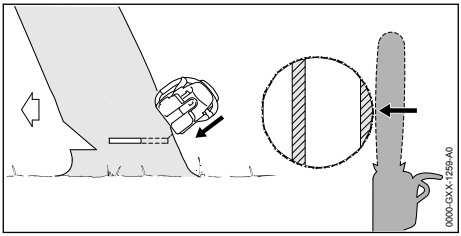
11.5.9 細い幹の傾いた木の伐倒

傾いた木は、追い口と追いづるで伐倒します。この追い口は、樹木の直径がガイドバーの長さよりも小さい場合に設けます。

- ► 大声で周囲に警告します。



- ► 幹の反対側に抜けるまで、追い口を突っ込み切りします (📖 11.5.5)。
- ► つるの方向に追い口を広げます。
- ► 追いづるの方向に追い口を広げます。

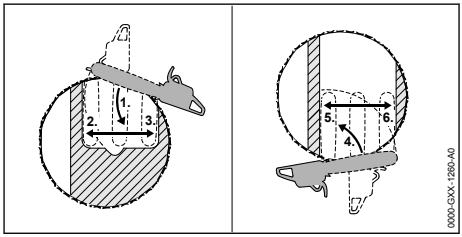


- ► 大声で周囲に警告します。
- ► 腕を伸ばした状態でチェンソーを保持し、外側から下向きに追いづるを切断します。
  樹木が倒れます。

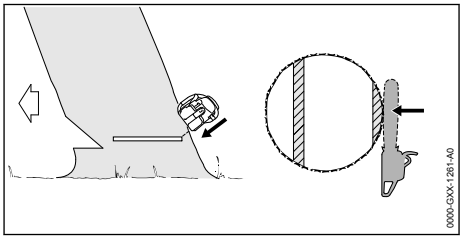
11.5.10 太い幹の傾いた木の伐倒

傾いた木は、追い口と追いづるで伐倒します。この追い口は、樹木の直径がガイドバーの長さよりも大きい場合に設けます。

- ► 大声で周囲に警告します。



- ► 追い口と同じ高さで追いづるの後ろ側にバンパースパイクをかみ合わせ、それを支点として利用します。
- ► ソーを水平に保持し、できるだけ深く追い口を設けます。
- ► つるの方向に追い口を広げます。
- ► 追いづるの方向に追い口を広げます。
- ► 樹木の反対側に移動します。
- ► 追い口と同じ高さでつるの後ろ側にバンパースパイクをかみ合わせ、それを支点として利用します。
- ► ソーを水平に保持し、できるだけ深く追い口を設けます。
- ► つるの方向に追い口を広げます。
- ► 追いづるの方向に追い口を広げます。



- ► 大声で周囲に警告します。
- ► 腕を伸ばした状態でチェンソーを保持し、外側から下向きに追いづるを切断します。
  樹木が倒れます。

12 作業後

12.1 作業後

- ► エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- ► チェンソーが冷めるまで待ちます。
- ► チェンソーが濡れている場合 : チェンソーを乾かします。
- ► チェンソーを掃除します。
- ► バーとチェンを掃除します。
- ► チェンスプロケットカバーのナットを緩めます。

- テンショニングスクリューを反時計回りに 2 回転させます。
  この段階でチェンが緩みます。
- チェンスプロケットカバーのナットを締め付けます。
- ガイドバーを完全に覆うようにチェンガードを取り付けます。

13 運搬

13.1 チェンソーの運搬

- エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- ガイドバーを完全に覆うようにチェンガードを取り付けます。

チェンソーの運搬

- チェンソーは、右手で前ハンドルを持ち、ガイドバーを後ろに向けて運搬してください。

チェンソーの車両輸送

- 倒れたり、ずれたりしないようチェンソーを固定します。

14 保管

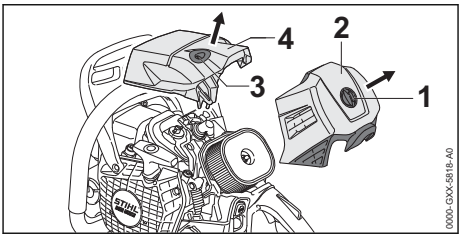
14.1 チェンソーの保管

- エンジンを停止して、チェンブレーキを掛けます。
- チェンガードをガイドバー上にスライドさせ、ガイドバー全体を覆うようにします。
- チェンソーは以下の条件が満たされるように保管してください：
  - チェンソーが倒れたり動いたりしないようにすること。
  - チェンソーが子供の手の届かないところにあること。
  - チェンソーが清潔かつ乾燥した状態にあること。
- チェンソーを 30 日以上保管する場合：
  - ガイドバーとソーチェンを取り外します。
  - 燃料タンクキャップを開けます。
  - 燃料タンクを空にします。
  - 燃料タンクキャップを閉めます。
  - 手動燃料ポンプが装着されている場合：手動燃料ポンプを最低 5 回押します。
  - エンジンを始動し、エンジンが停止するまでアイドリングを続けます。

15 清掃

15.1 チェンソーの清掃

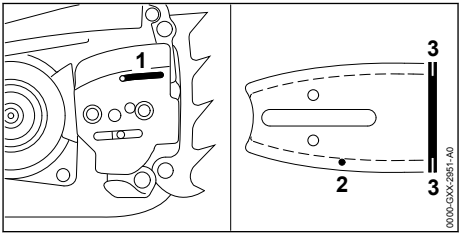
- エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- チェンソーが冷めるまで待ちます。
- チェンソーを湿らせた布または STIHL 樹脂溶剤で拭きます。
- 冷却風吸入部を柔らかいブラシで掃除します。



- フィルターカバーロック (1) を反時計回りに 1/4 回転させます。
- フィルターカバー (2) を取り外します。
- シュラウドロック (3) を反時計回りに 1/4 回転させます。
- シュラウド (4) を取り外します。
- チェンスプロケットカバーを取り外します。
- 柔らかいブラシ、湿らせた布、または STIHL 樹脂溶剤を使用してシリンダーフィンとシュラウドの内側を掃除します。
- スプロケット周辺部を湿らせた布または STIHL 樹脂溶剤で掃除します。
- シュラウド (4) を位置決めします。
- カチッという音が聞こえるまでシュラウドロック (3) を時計回りに回します。
  シュラウドロック (3) が固定されます。
- フィルターカバー (2) を取り付けます。
- カチッという音が聞こえるまでフィルターカバーロック (1) を時計回りに回します。
  フィルターカバーロック (1) が固定されます。
- チェンスプロケットカバーを取り付けます。

15.2 バーとチェンの清掃

- エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
- バーとチェンを取り外します。



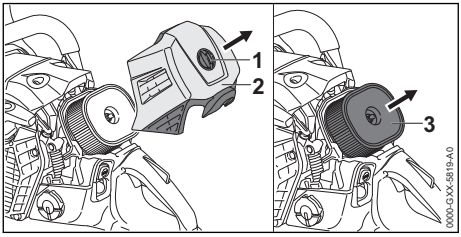
- オイルポート (1)、オイルインレット孔 (2)、バーの溝 (3) を柔らかいブラシまたは STIHL 樹脂溶剤で清掃します。
- ソーチェンを柔らかいブラシまたは STIHL 樹脂溶剤で清掃します。
- バーとチェンを取り付けます。

15.3 エアフィルターの清掃

エアフィルターには非常に細かい粉塵が溜まることがあります。そうした粉塵はフィルターを詰まらせるおそれがあり、ブラシをかけたり、叩

いたりしても取り除けないことがあります。エアフィルターは洗浄剤で清掃する必要があります。

► エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。

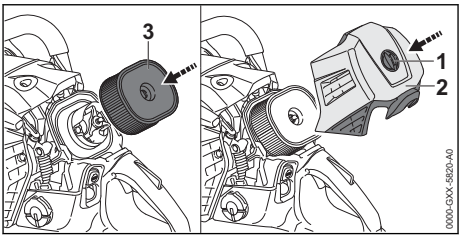


► フィルターカバーロック (1) を反時計回りに 1/4 回転させます。
► フィルターカバー (2) を取り外します。
► エアフィルター (3) 周辺部を湿らせた布または柔らかいブラシで掃除します。
► エアフィルター (3) を取り外します。
► 流水でエアフィルター (3) 外側から大きなゴミを洗い流します。
► エアフィルター (3) が損傷している場合：新品のエアフィルター (3) を取り付けてください。

警告

■ 洗浄剤が皮膚に付着したり、目に入ったりすると、炎症を引き起こすおそれがあります。
  ► 洗浄剤に同梱されている取扱説明書に従ってください。
  ► 洗浄剤には触れないでください。
  ► 洗浄剤が皮膚に付着したときは：付着した部分を大量の石鹸と水で洗浄してください。
  ► 洗浄剤が目に入ったときは：多量の水で 15 分以上洗眼し、医師の診察を受けてください。

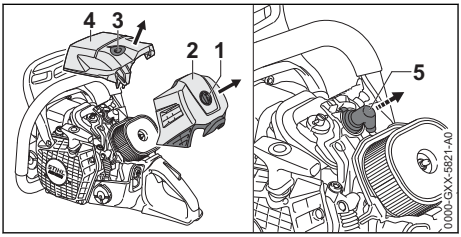
► エアフィルター (3) の外側と内側に STIHL 特殊洗浄剤または pH 値が 12 以上の洗浄剤を吹き付けます。
► STIHL 特殊洗浄剤または洗浄剤が効果を発揮するまで 10 分間待ちます。
► 柔らかいブラシを使用してエアフィルター (3) の外側を掃除します。
► エアフィルター (3) の外側と内側を流水ですすぎます。
► エアフィルター (3) を自然乾燥させます。



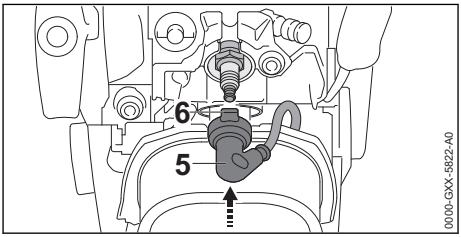
► エアフィルター (3) を手で所定の位置に押し込みます。
► フィルターカバー (2) を取り付けます。
► カチッという音が聞こえるまでフィルターカバーロック (1) を時計回りに回します。
フィルターカバーロック (1) がロックされます。

15.4 スパークプラグの清掃

► エンジンを切り、チェンブレーキを掛けます。
► チェンソーが冷めるまで待ちます。



► フィルターカバーロック (1) を反時計回りに 1/4 回転させます。
► フィルターカバー (2) を取り外します。
► カバーロック (3) を反時計回りに 1/4 回転させます。
► カバー (4) を取り外します。
► スパークプラグターミナル (5) を引き抜きます。
► スパークプラグ周辺が汚れている場合 : 布で拭いてください。
► スパークプラグを取り外します。
► スパークプラグを布で拭きます。
► スパークプラグが腐食している場合は、スパークプラグを交換してください。



► スパークプラグを差し込み、ねじ込みます。

- ► 突起 (6) が真上を向くようにスパークプラグブーツ (5) を配置します。
- ► スパークプラグターミナル (5) を所定の位置に押し込みます。
- ► カバー (4) を取り付けます。
- ► カチッという音が聞こえるまでシュラウドロック (3) を時計回りにまわします。
  シュラウドロック (3) が固定されます。
- ► フィルターカバー (2) を取り付けます。
- ► カチッという音が聞こえるまでフィルターカバーロック (1) を時計回りにまわします。
  フィルターカバーロック (1) が固定されます。

16 整備

16.1 整備間隔

整備間隔は、環境と運転条件によって異なります。STIHL 社では次の間隔による整備をお勧めしています：

チェンブレーキ

- ► チェンブレーキは、以下の間隔で STIHL サービス店に整備を依頼してください：
  - – 頻繁な使用時：3 ヶ月毎
  - – 時々の使用時：6 ヶ月毎
  - – たまにしか使用しない時：12 ヶ月毎

100 運転時間毎

- ► 新しいスパークプラグを取り付けてください。

毎週

- ► チェンスプロケットを点検します。
- ► ガイドバーの点検とバリ取りを行います。
- ► ソーチェンの点検と目立てを行います。

毎月

- ► エアフィルターを掃除します。
- ► STIHL サービス店にオイルタンクの清掃を依頼してください。
- ► STIHL サービス店に燃料タンクの清掃を依頼してください。
- ► STIHL サービス店に燃料タンクのピックアップボディ (フィルター) の清掃を依頼してください。

12 ヵ月毎

- ► STIHL サービス店に燃料タンクのピックアップボディ (フィルター) の交換を依頼してください。

16.2 ガイドバーのバリ取り

ガイドバーの外端部にはバリが生じることがあります。

- ► バリは平ヤスリまたは STIHL ガイドバードレッシングツールを使用して取り除いてください。
- ► ご不明な点があれば：最寄りの STIHL サービス店に連絡してください。

16.3 ソーチェンの目立て

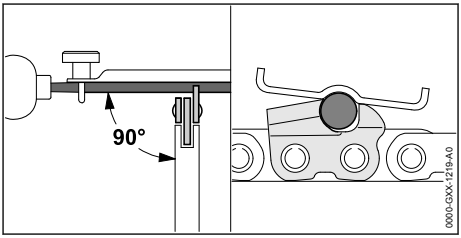
ソーチェンを適切に目立てするには、練習を重ねる必要があります。

STIHL ヤスリ、STIHL 目立て補助具、STIHL 目立て機、「STIHL ソーチェンの目立て」冊子は、良い結果を生むのに役立ちます。冊子は、右記のサイトから入手できます：http://www.stihl.com/sharpening-brochure

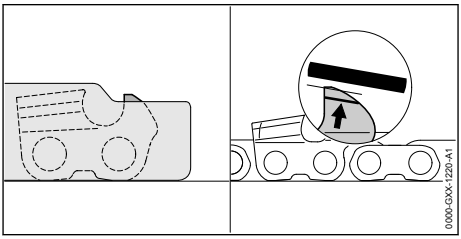
STIHL 社では、ソーチェンの目立てを STIHL サービス店に依頼されることをお勧めしています。

⚠ 警告

- ■ チェンのカッター部分は非常に鋭利です。切傷を負う危険性があります。
  - ► 丈夫な素材の手袋を着用してください。



- ► 以下の点を遵守しながら各カッターに丸ヤスリをかけます：
  - – 丸ヤスリがチェンのピッチと適合しているか確認します。
  - – カッターの内側から外側に向かってヤスリをかけます。
  - – ヤスリをガイドバーに対して直角になるように保持します。
  - – 30°の目立て角度を維持します。



- ► STIHL ファイリングゲージと同一高になり、サービスマークと平行になるようデプスゲージを平ヤスリで削ります。STIHL ファイリングゲージは、チェンのピッチと適合していなければなりません。
- ► ご不明な点があれば：STIHL サービス店にサポートを依頼してください。

17 修理

17.1 チェンソー、ガイドバー、ソーチェンの修理

ユーザーはチェンソー、ガイドバー、ソーチェンを修理できません。

- チェンソー、ガイドバー、ソーチェンが損傷した場合：チェンソー、ガイドバー、ソーチェンを使用しないでください。STIHL サービス店に連絡してください。

18 トラブルシューティング

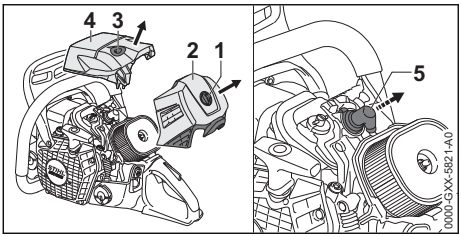
18.1 チェンソーのトラブルシューティング

大半の不具合は、同じ原因で引き起こされます。
- 以下の作業を行います：
  - エアフィルターを掃除します。
  - スパークプラグを清掃するか、交換します。
  - フルスロットル状態で 5 回の均一な玉切りをします。
    エンジンが周囲条件に合うように自動調整されます。
- 引き続き不具合が解消されない場合：下表に記載されている作業を行ってください。

状態	原因	処置
エンジンが始動しない。	燃料タンク内の燃料が不足している。	► 燃料を混合し、チェンソーに給油します。
	エンジンが燃料を吸い込みすぎている。	► 燃焼室を換気します。
加速不良	チェンが張り過ぎている。	► チェンを適切に張ります。
	チェン潤滑システムがチェンオイルを十分に供給していない。	► オイル供給量を増やします。
スロットルを開いても、ソーチェンが回転しない。	チェンブレーキが掛かっている。	► チェンブレーキを解除します。
	チェンが張り過ぎている。	► チェンを適切に張ります。
	バーノーズスプロケットが詰まっている。	► バーノーズスプロケットを STIHL 樹脂溶剤で掃除します。
鋸断中に煙が発生するか、焦げる臭いがする。	チェンが適切に目立てされていない。	► チェンを適切に目立てします。
	タンク内のチェンオイルが不足している。	► チェンオイルを給油します。
	チェン潤滑システムがチェンオイルを十分に供給していない。	► オイル供給量を増やします。
	チェンが張り過ぎている。	► チェンを適切に張ります。
	チェンソーを適切に使用していない。	► 適切な使用方法の説明を受け、練習を積んでください。

18.2 燃焼室の換気

- チェンブレーキを掛けます。

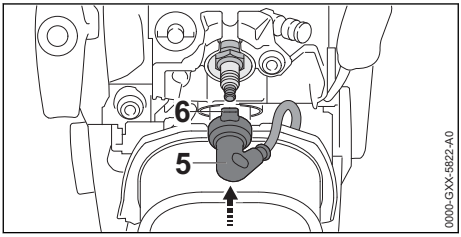


- ► フィルターカバーロック (1) を反時計回りに 1/4 回転させます。
- ► フィルターカバー (2) を取り外します。
- ► シュラウドロック (3) を反時計回りに 1/4 回転させます。
- ► シュラウド (4) を取り外します。
- ► スパークプラグターミナル (5) を抜き取ります。
- ► スパークプラグを取り外します。
- ► スパークプラグを乾かします。

⚠ 警告

- ■ スパークプラグターミナルを取り外してスターターグリップを引くと、エンジン外部で火花が発生することがあります。引火または爆発が起きやすい環境下では、火花によって火災や爆発が生じるおそれがあります。それにより重傷または致命傷を負ったり、器物が損壊したりすることがあります。
  - ► 停止スイッチを押したまま保持してからスターターグリップを引きます。

- ► 停止スイッチを押したまま保持します。
- ► スターターグリップを引き、手を添えて戻す作業を数回繰り返します。
  燃焼室が換気されます。
- ► スパークプラグを差し込み、締め付けます。



- ► 突起 (6) がまっすぐ上を向くようにスパークプラグターミナル (5) を位置決めします。
- ► スパークプラグターミナル (5) をしっかりと押し込みます。
- ► シュラウド (4) を位置決めします。
- ► カチッという音が聞こえるまでシュラウドロック (3) を時計回りに回します。
  シュラウドロック (3) が固定されます。
- ► フィルターカバー (2) を取り付けます。
- ► カチッという音が聞こえるまでフィルターカバーロック (1) を時計回りに回します。
  フィルターカバーロック (1) が固定されます。

19 技術仕様

19.1 チェンソー STIHL MS 500i

- 排気量：79.2 cm³
- ISO 7293 に準拠した出力：5.0 kW (6.8 PS)
- ISO 11681 に準拠したアイドリング回転数：3000 ± 50 rpm
- 承認されているスパークプラグ：STIHL NGK CMR6H、BOSCH USR 4AC
- スパークプラグの電極ギャップ：0.5 mm
- 重量 (燃料タンク、オイルタンクが空の状態、ガイドバー、ソーチェンなし)
  - MS 500i：6.2 kg
  - MS 500i、ハンドルヒーター付き：6.3 kg
- 燃料タンク最大容量：785 cm³ (0.785 l)
- オイルタンク最大容量：325 cm³ (0.325 l)

19.2 チェンスプロケットとチェンスピード

以下のチェンスプロケットを使用できます：

- 7 枚歯、3/8" 用
  - ISO 11681 に準拠した最大チェンスピード：28.9 m/s
  - 最大出力時のチェンスピード：21.7 m/s

19.3 ガイドバー溝の最小深さ

溝の最小深さは、ガイドバーのピッチによって異なります。

- 3/8"：6 mm

19.4 騒音値および振動値

- ISO 22868 に準拠して測定した音圧レベル L_{peq}：106 dB(A)。音圧レベルの特性値は 2 dB(A)です。
- ISO 22868 に準拠して測定した音響パワーレベル L_{weq}：117 dB(A)。音響パワーレベルの特性値は 2 dB(A)です。
- ISO 22867 に準拠して測定した振動値 $a_{hv,eq}$：
  - ハンドルバー：4.2 m/s²。振動値の特性値は 2 m/s²です。
  - コントロールハンドル：4.0 m/s²。振動値の特性値は 2 m/s²です。

振動に関する指令 2002/44/EC の遵守に関する情報は、www.stihl.com/vib に記載されています。

19.5 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (Chemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)規制を意味します。

REACH 規定の遵守に関する詳細については、www.stihl.com/reach をご覧ください。

19.6 排気ガス

欧州連合の型式承認手続きで測定された CO_2 値は、製品別技術データで www.stihl.com/co2 に明記されています。

CO_2 測定値は、代表的なエンジンを実験室で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。型式認定は、エンジンを改造すると無効になります。

20 バーとチェンの組み合わせ

20.1 STIHL MS 500i チェンソー

ピッチ	ドライブリンクゲージ/溝幅	長さ	ガイドバー	ノーズスプロケット歯数	ドライブリンク数	ソーチェン
3/8"	1.6 mm	40 cm	ローロマチック E	11	60	36 RS (3621 型) 36 RS3 (3626 型) 36 RM (3652 型) 36 RM3 (3664 型) 36 RD3 (3683 型)
			ローロマチック ES			
			デュロマチック	-		
		45 cm	ローロマチック E	11	66	
			ローロマチック ES			
			デュロマチック	-		
		50 cm	ローロマチック E	11	72	
			ローロマチック ES			
			ローロマチック ES ライト			
			デュロマチック	-		
		55 cm	ローロマチック ES	11	76	
			デュロマチック	-		
		63 cm	ローロマチック E	11	84	
			ローロマチック ES			
			ローロマチック ES ライト			
			デュロマチック	-		
		71 cm	ローロマチック ES	11	91	
			ローロマチック ES ライト			
		75 cm	デュロマチック	-	98	
		80 cm	ローロマチック ES ライト	11	105	
		90 cm	ローロマチック ES ライト	11	114	

ピッチ	ドライブリンクゲージ/溝幅	長さ	ガイドバー	ノーズスプロケット歯数	ドライブリンク数	ソーチェン
ガイドバーの切断長は、使用するチェンソーとソーチェンによって異なります。実際の切断長は、規定の長さよりも短い場合があります。						

21 スペアパーツおよびアクセサリー

21.1 スペアパーツおよびアクセサリー

STIHL これらの記号は、STIHL 純正のスペアパーツと STIHL 純正のアクセサリーに付けられています。

STIHL 社では、STIHL 純正の交換部品とアクセサリーの使用をお勧めしています。

STIHL 社は市場に出回っている商品を継続的に調査しておりますが、他社製スペアパーツとアクセサリーの信頼性、安全性、適性を判断することはできません。そのため、STIHL 社はそうした部品の使用を許可しておりません。

STIHL 純正の交換部品と STIHL 純正のアクセサリーは、STIHL サービス店から入手することができます。

22 廃棄

22.1 チェンソーの廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。

- ► 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ► 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

23 EC 適合証明書

23.1 チェンソー STIHL MS 500i

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Badstraße 115
D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において
– モデル：チェンソー
– 製造ブランド：STIHL
– タイプ：MS 500i、MS 500i W
– シリアル番号：1147
– 排気量：79.2 cm³

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU、2000/14/EC の関連する条項に適合しており、以下の規格のそれぞれ製造時点で有効であった版に準拠して開発および製造されたことを保証いたします：EN ISO 11681-1、EN 55012、EN 61000-6-1。

指令 2006/42/EC 第 12 条第 3 項(b)に準拠した EC 型式試験の実施機関：DPLF, Deutsche Prüf- und Zertifizierungsstelle für Land- und Forsttechnik GbR (NB 0363),
Spremberger Straße 1, 64823 Groß-Umstadt, Germany
– 認証番号：K-EG-2017/8346
音響パワーレベルは、測定値並びに保証値共に、指令 2000/14/EC の付属書 V の規定、および ISO 9207 基準に従って決定されています。
– 音響パワーレベル測定値：119 dB(A)
– 音響パワーレベル保証値：121 dB(A)

技術資料は ANDREAS STIHL AG & Co. KG の製品認証部に保管されています。

製造年と機械番号は、チェンソーに表示されています。

2022 年 8 月 1 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人

Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs & Global Governmental Relations

24 UKCA 適合宣言

24.1 チェンソー STIHL MS 500i

UK CA

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Badstraße 115
D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において
– モデル：チェンソー
– 製造ブランド：STIHL
– タイプ：MS 500i、MS 500i W

– シリアル番号：1147
– 排気量：79.2 cm³

英国規則 The Restriction of the Use of Certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment Regulations 2012, Supply of Machinery (Safety) Regulations 2008, Electromagnetic Compatibility Regulations 2016 および Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001 の関連する条項に適合しており、以下の規格のそれぞれ製造時点で有効であった版に準拠して開発および製造されたことを保証いたします：
EN ISO 11681-1、EN 55012、EN 61000-6-1。

型式試験の実施機関：Intertek Testing & Certification Ltd, Academy Place, 1 – 9 Brook Street, Brentwood Essex, CM14 5NQ, United Kingdom
– 認証番号：UK-MCR-0018
音響パワーレベルは、測定値並びに保証値共に、英国規則 Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001, Schedule 8、および ISO 9207 基準に従って決定されています。
– 音響パワーレベル測定値：119 dB(A)
– 音響パワーレベル保証値：121 dB(A)

技術資料は ANDREAS STIHL AG & Co. KG に保管されています。

製造年と機械番号は、チェンソーに表示されています。

2022 年 8 月 1 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人

Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs & Global Governmental Relations

25 アドレス

www.stihl.com

0458-809-4321-B

www.stihl.com

0458-809-4321-B